



7th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific

7th ICAAP Secretariat, c/o Convention Linkage, Inc.
PIAS TOWER 11F, 3-19-3 Toyosaki, Kita-ku, Osaka 531-0072 JAPAN
Phone: +81-6-6377-2188 Fax: +81-6-6377-2075

プレスリリース

2005年7月2日

ハームリダクションで、アジア太平洋地域のHIV 感染の流行は減少する

薬物注射使用が、アジアにおけるエイズの流行を広げている主な要因のひとつであることには強調するに足りるだけの科学的な根拠があるにも関わらず、アジア各国の政府や団体は、薬物使用者をHIV 感染から守るためのサービスの提供に関し、大きな遅れをとっている。

第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議で、明らかにされた発表や報告によると、今日の中国における HIV 感染の多くは、薬物注射使用によるものであり、さらに、インドにおける流行もこれまで考えられていた以上に、薬物注射使用が大きく影響しているという兆候がみられている。また、インドネシア、ネパール、ベトナムでは、薬物注射使用者の間での HIV 感染に続き、薬物注射はしないがリスクのある性行動をする人々の間での HIV 感染が起き始めている。つまり、流行の拡大が始まっている。

「薬物関連介入プログラムはスケールアップすべきである」と、国連合同エイズ計画(UINAIDS)の地域サポートチームの地域ディレクターである JVR プラサダ・ラオ氏は訴える。散発的な成功例はある。しかし、カバーされている薬物使用者は、非常に少ない。

残念なことに、これが薬物注射関連の HIV 感染の流行が猛威をふるっているアジア・太平洋地域の実情である。

「アジアにおけるエイズの流行は、薬物注射使用人口が多く、注射針を共有する機会が多いことが要因である。それを示す証拠は十分すぎるほどあがっている」と、パキスタンの薬物使用者への路上サービスを行う NGO 団体のナイ・ジンダギ氏は、ICAAP の基調演説で語った。

「薬物使用を断つことが最終的解決策だが、それは薬物注射使用者にとっては無理な話だし、治療を受けさせる体制さえ整っていないのが現状だ。まず薬物注射や、注射針共有をやめさせることができる方法がなくてはならない」

神戸の会議は、薬物使用とアジア・太平洋地域の HIV/AIDS の流行に関する最新の情報と意見を集大成させるために開かれているが、参加者によれば、薬物使用を地域の HIV/AIDS の感染拡大の主要因としてとらえる見方が理解されてきた。

アジアのハームリダクション・ネットワークの理事であるトン・スミッツ氏は、会議で報告された新たなデータのいくつかは、HIV を薬物使用者からより広いコミュニティに感染が広がっていることを確認する上で重要だが、早急に求められているのは、危機に際して行動を起こすことを約束している政府が実際に行動を取ることである。

「今週聞いていることは証拠を組み合わせる上で重要な要素ではあるが、我々が既に知っている以上のことは何もなかった。」とスミッツ氏は語る。「我々が必要としているのは、アジアで薬物を使用する人々が巻き込まれている危機に際し、手助けをするために明白な取り決めをした政府や団体が早急な行動を起こすことである」



7th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific

7th ICAAP Secretariat, c/o Convention Linkage, Inc.
PIAS TOWER 11F, 3-19-3 Toyosaki, Kita-ku, Osaka 531-0072 JAPAN
Phone: +81-6-6377-2188 Fax: +81-6-6377-2075

世界の大手不法ヘロイン製造者の殆どが集中し、多くの地域で貧困が蔓延しているアジアは、世界最大の麻薬注射使用人口を抱えている。例えば 2004 年に、アフガニスタンで栽培されたアヘンは 64% 増えた。これは、アジア・太平洋地域並びに他の国々において薬物の流通と高品質なヘロインの供給が増加していることを示している。

薬物をやめるのは容易ではなく、他の中毒治療法や治療サービスがほとんどないことからすれば、より現実的なアプローチは、薬物使用の影響とそれに関連するリスクを軽減することである。「ハームリダクション」とは、必ずしも薬物使用の量を減らすことではなく、薬物使用者とコミュニティ全体の薬物使用による害を軽減することを言う。

ハームリダクションの 1 つに、「代替薬物療法」 アヘン系薬物使用者（例：ヘロイン）が、薬物使用をやめたり減少させたりした際に経験する引きこもり症状や渴望を軽減する治療法 がある。メタドンは、代替薬物療法で使われる経口薬剤の 1 種である。メタドンを服用している薬物使用者は、そうでない者に比べて、数段薬物を注射しない傾向にあるため、彼らの HIV 感染リスクを下げるのにも非常に効果がある。

ICAAP 開催の前日に、世界保健機関（WHO）が、推奨薬剤のリストである WHO 基本薬剤リスト（WHO List of Essential Medicine）にメタドンを加え、世界中の保健サービスにおける基本使用を推奨したことは、大きな出来事である。

ICAAP の参加団体はハームリダクションサービスの拡大を切望している。UNIAIDS のラオ氏はそのプログラムをもっと包括的なものにするべきであると主張している。注射針交換プログラムやメタドンの代替薬物療法は重要ではあるが、ハームリダクションサービスの一部にすぎない。「これらの要素を包括的なパッケージにしなければならない」とラオ氏は述べた。

世界の HIV 感染者の 5~10% は、薬物注射使用によるものであると報告されている。薬物注射使用者間の HIV 感染は予防できる。そして、薬物注射使用者の間の HIV 感染を予防することはより広い社会への感染の拡大を防ぐことにもなる。「私達がこれらの排斥された人々や、彼らの行動から目をそむけていてもこの問題はなくなる」と HIV/エイズの流行を監視している疫学専門家グループの責任者であるカレン・スタネキー氏は述べた。この人々に対する予防サービスを支援することにより HIV 感染の危機を縮小させることができる。そしてより広い人口層への感染拡大予防に役立つことであろう。

詳細なプログラム(英語)が、ウェブサイトで見いただけます

http://www.icaap7.jp/congress_schedule内をクリックし、プログラム(PDF)をご参照下さい。

本件に関するお問い合わせ先：

第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議 広報委員会

会期中 (7/1~)：メディアセンター (神戸ポートピアホテル 本館2階 つつじの間)

078-302-2564